

グループホーム みんなの家

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		施設内だけでなく地域にも理念{笑顔のある暮らし}を理解して頂けるよう取り組んでいきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		地域行事の参加時には、立ち寄って頂けるように話している。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地元の中学生の福祉体験学習への受け入れを行っている。

グループホーム みんなの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在していない		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の実施時には、会議を開き日常的な意識改革や改善点がないか話し合い具体策検討し改善に取り組んでいる。		評価を活かし、職員一人一人がますます施設向上に繋がるように取り組んでいる。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内のイベントや地域内の行事の参加状況・日々の利用者様の様子など報告し認知症への理解も頂きながら参加者からのアドバイス・意見はサービス向上に生かすよう努力している。		まだ充分ではないので今後の課題となっている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村に出掛ける際、入居者の様子や御家族の関わり状況も報告し情報の共有行っている。サービスの内容が変化するときは担当者に助言仰ぎ質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修への参加の取り組みや入居者に必要な方には、市町村に相談して対応している。入居時には制度の説明を行うようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加をし、会議時に発表の場を設け、他の職員の質の向上に努め虐待防止に努めている。		

グループホーム みんなの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者、介護支援専門員は本人、御家族にゆっくりと分かり易く説明し、理解、納得をして頂いている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見、不満が発生した場合はその都度対応したりご家族に報告し解決に努めている。また、玄関に苦情ボックスを設置し、意見等がある場合は改善に向け施設向上に努力するようにしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用明細送付時手紙を添えたり、面会や電話での様子報告をしている。またホーム新聞の発行時に職員紹介を載せている。</p>	○	<p>職員の異動は知らせていない。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情ボックスを設置している。意見、不満、苦情等が出れば早急に改善に向け対処したい。また、面会時や電話の際に意見、要望など聞き配慮している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回の会議や、申し送り、回覧板等で意見求めたり、個人面談設け傾聴し反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の特変時に対応が出来るように勤務調整を行ったり、家族(親戚を含む)への支援依頼・ボランティアへの協力を仰いでいる。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職や異動等は入居者の混乱を防ぐため為報告はしていない。しかし必要な方には報告をしている。</p>		<p>最小限度に離職者を抑える努力はしているが、今後の課題となっている。</p>

グループホーム みんなの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>年齢等の採用対象外にはせず、採用時に能力が發揮出来る方、またグループホームにふさわしい方としている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>内外研修等の参加に努めている。</p>		<p>会議時に日々の処遇について話し合い、またきずいた時点で職員と話し合っている。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の能力に合わせた外部研修や、指導を取り入れている。</p>		<p>当施設勤務のマンネリ化を防ぐため他の施設研修の取り組みも今後は考えていきたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>計画はあるもののまだ実行できていない。</p>		<p>まずは他施設とのネットワーク作りを行い相互の訪問・勉強会の実施実現に向け努力したい。市や区など公共のネットワークも利用したい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>行事の態度や様子をいち早く気づき、悩みや、ストレスをなるべく溜めない状況をつくり軽減対策に対応している。</p>		

グループホーム みんなの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	会議に職員が発揮できるように事前に取り上げる内容や、申し送り等に記入してもらい職員が向上心を持って働けるように努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時、本人もしくはそれらに関わる関係者から状況を聞き取り、安心して入居できるように何度も情報収集を行っている。		入居前には、自宅を訪問し現状を把握しサービス提供責任者、ケアマネージャーとカンファレンスを行い入居後のサービスに努めている。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の状況を配慮し早急に問題解決が出来るように努力し、入居後に安心してサービスが受けられるような話し合いを持ち信頼関係を築いている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでサービスが出来ること、出来ないことを報告し、急遽必要と判断であれば本人とご家族に説明しサービス利用の対応に努めている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居から一週間ほど施設に慣れて頂くため、他の入居者、職員との関係に徐々に馴染める様雰囲気作り工夫している。		入居一か月の暫定ケアプラン作成し、見直しを行うようにしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護者は本人の生活歴など情報を共有し、新しい環境の変化による不安や寂しさを共感したり傾聴しつつ人生の先輩として敬意はらい接するよう努力している。		

グループホーム みんなの家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族は、本人を支える為に家族に相談時のアドバイスや、思いを共に共感し信頼感を築いている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人とご家族の懸け橋となり、報告、連絡、相談をしっかりと伝え、誤解が生じないように気をつけ、より良い関係が続く様に支援している。		行事等の参加や面会の呼びかけをしているが、小人数の参加のため不参加家族には後日報告して次回の参加に繋げたい。又、本人と家族のより良い関係が築けるよう様に工夫していきたい。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力にて里帰りや、地域の行事等の参加支援に努めている。またこれまでの馴染みの方へ連絡を取り来ていただいたりして関係が途切れないように支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の性格や気質を考え、レク時のテーブル席を配慮している。また個々の能力に合わせ支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も、関わりを持っておられる方に、近況情報を戴いたりして面会にて関係を断ち切らないようにしている。また遠方のかたには、年賀はがきを出してつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にも面会しアセスメントを行い、入居時も本人と家族、関わりがあった人の要望、意向を聞き、それに沿ったサービスを行っている。意志疎通困難な場合は、その都度検討し対応している。		

グループホーム みんなの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問時、生活環境や生活歴を聴き取り、馴染みのあるものをお持ちし不安や問題等への配慮をしている。		変更プラン時は、担当者の情報交換にて検討している。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日健康チェック(バイタル測定)や心身の状態を把握し、変化時は看護師に報告し早目の対応や申し送り等で職員に周知して把握している。また有する力等(洗濯たたみ、料理の下準備等)の手伝いを出来る方にはして戴いている。		スタッフ間の細やかなコミュニケーション、意見交換し職員に周知し把握している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時、本人、家族等に関わった関係者と蜜に話し合いホームで出来るケアプランの作成をし本人が穏やかに暮らせるケアに努めている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケアプラン実施表と3か月毎のモニタリングの見直しを行っている。特変が生じた場合は、本人、家族等と話し合いその都度対応出来るケアプランへ変更している。	○	ケアプランの見直しは、6か月毎本人・家族等へ郵送同意を頂いている。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	種々のチェックリストに記入し変化を明確にすることでスタッフへの気づきと促しにより担当者会議で意見交換をしている。	○	介護日誌を個別に記録し情報を共有しケアプランに反映している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の外出時や、家族の面会時の送迎など不便のない様に配慮し対応をしている。また、遠方の家族の方にゆっくりとくつろいで戴く為に、宿泊室を設けている。		

グループホーム みんなの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	推進会議等で呼びかけし、ボランティア参加や施設周囲のパトロール、校区消防団の協力による避難訓練の指導、また小中学生の教育現場として協力している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人、家族の要望にてデイサービスの使用や校区の行事参加等の支援をしている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて社会福祉協議会の支援や、一人ひとりの合ったケアマネジメントを地域包括支援センターと協働している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望があれば馴染みのかかりつけ医の受診継続や、週一回の訪問診療等の支援をしている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	継続している入居者の医療機関とは、随時連絡し必要時専門医の受診をしている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	継続している入居者の看護師と連携し毎日のバイタル測定や体調チェックをし健康管理に気をつけている。	○	24時間体制をとり看護師と連絡が可能にし日常の健康管理や緊急時の医療体制をとっている。

グループホーム みんなの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	入院した場合、早期退院のための話し合いを看護師・介護支援専門員や医療機関と行っている。	○	随時様子を伺い退院に向け対応している。
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	家族と主治医やホームの看護師との連携し少しでも維持できるように十分に話し合い本人が安心できるように周知している。	○	かかりつけ医師と看護師と24時間体制を取っている。
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	医師との連携をとり今までの生活を維持できるように随時観察と状況把握を十分本人と家族と話し合いながら支援している。		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	入居先へ情報を提供し本人、家族と十分に話し合い移り住む場所が早く馴染むように支援している。		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	入居者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。記録等の個人情報の取り扱いには十分に管理している。		

グループホーム みんなの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定が出来る方は要望にそるよう支援したり、本人が納得されるように説明を行い穏やかな暮らしが出来るようにしている。また希望や自己決定が困難な方は、出来るだけ本人に合った支援をしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、本人のペースに合った暮らしをして戴き、職員が余裕を持って接している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人、家族の要望に応じた店に行けるように支援している。		ボランティアの受け入れをしている。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と同じ食事を一緒に交え楽しみながら食べている。準備や、後かたづけなど出来る方は手伝って戴いている。(野菜の皮むき、盛り付け、トレー拭き)など。	○	行事等には希望の献立や季節の野菜も宅配のメニューに加わりバランスを考えている。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	できる限り本人の嗜好の要望は取り入れたいが、酒などは家族、医師と相談し慎重に配慮している。また飲み物、おやつは状況に合わせてだしている。	○	現在煙草を吸われている方が2名おられ喫煙場所を設け、個人の煙草は職員が管理している。
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンを把握しトイレの誘導にて失敗やおむつの使用を減らし出来るだけ時排尿を心掛けている。		

グループホーム みんなの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望や体調に合わせ、一日おきに入浴をして戴くように声かけをしている。声かけに対し拒否される時は、時間、日にちをずらしてタイミングに合わせて入浴をして戴いている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時居室の温度や照明の明るさに気をつけたり、程よい日中の散歩やレクの参加をして戴き睡眠をしっかり取って戴いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る力を活かし、日常生活の中に取り入れ楽しみや気晴らしの支援をしている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等の希望時は、島内の店に本人にお金を所持して使えるように支援している。また雑貨や衣類などの希望時は、個別に街に買い物にでかけている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候、体調に気をつけ毎日散歩やドライブのお誘いを行っている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望時は、家族、職員の協力で入居者が安全に出かけられるように支援している。	○	遠方の外出も支援している。

グループホーム みんなの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要求時は、職員が内容を把握し相手の方に内容が分かりやすいように支援したい。また手紙のやり取りの支援もしている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人など馴染みの人たちが、自由に訪問出来る雰囲気を作っている。また遠方の家族の方は宿泊できる部屋を設け利用されている家族も多い。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修を受け、会議の中で拘束をしないケアに取り込み、職員全体で周知している。	○	拘束マニュアル作成あり
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全面を考慮し居室には、鍵が付いてない。また玄関は、自由に出入り出来るように開放している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定時的に居室を訪問声かけし、所在や様子を確認し把握している。また夜間時は、巡視を行い安全面に気をつけ配慮している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	調理器具、洗剤、薬は各所定置に保管し危険を防いでいる。また入居者の方の状況に応じて貸し出す場合は、安全に気をつけて取組んでいる。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	内外研修等の参加に努めたり、避難訓練に取り組んで会議で報告し知識を学び周知している。発生時、事故報告書やヒヤリ・ハットを作成し全職員に周知して再初防止に向け検討している。		

グループホーム みんなの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命講習を全職員に受けている段階で、事故発生時や急変時に対応できるように訓練を行っている。またマニュアルを作成し急変時や事故発生時に備えている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や校区消防団の協力にて年2回実施している。また地域の避難訓練時は随時参加し対策を得ている。	○	マニュアル作成にて準備している。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりの状況に気をつけ変化時は、家族に報告し早目の対応にてリスクを軽減している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康管理に気をつけ、バイタル測定やその日様子に変化時看護師に報告し対応に努めている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の食事摂取表に服薬の処方箋を貼付し確認できるようにしている。また追加や変更時は介護記録に記載し申し送り時に確認できるようにしている。	○	処方箋を綴じ確認が出来るようにしている。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排泄チェックリストを確認し体調に気をつけ、散歩や軽い運動を取り入れて便秘の予防に気をつけている。また飲食物にも気をつけている。		

グループホーム みんなの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、義歯洗浄、先口を支援している。必要な方は、訪問歯科も取り入れている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取、水分摂取量が解るチェックリストに記入し、栄養状態を把握している。また定期的に医師に報告・検査し健康管理に気をつけている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の研修参加や、マニュアルを作成し、予防と対策に取り込んでいる。インフルエンザ予防接種は、入居者と職員全員に年一回接種し感染防止に気をつけている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	内外研修の徹底と食中毒の予防に調理器具は毎日夕食後に漂白を行う。食材の管理は、用途に合った保管や、使用時間や鮮度に気をつけて安全なものを使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の廻りには花壇やベンチを設置したり、玄関からスロープには手すりをつけ安全面に配慮している。また常に玄関に花を活け明るい雰囲気が持てるように工夫している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・リビングには季節の草花や物を飾り一年の季節変化が解るように配慮したり、玄関のドアは二重にし季節に合わせて調整を行い不快な音や、光の配慮にて居心地よく過ごせる工夫をしている。		

グループホーム みんなの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やリビング、テラスには椅子を設置し気の合った同士が過ごせるように工夫している。リビングには、畳の空間を設置して気軽に利用できるようにしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や家族との思い出の物など居室に設置し穏やかに暮らせるように配慮している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	季節感を取り入れた風や、24時間換気扇の工夫をし、においや温度調整の配慮をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・風呂場には手すりを設け、内部の床には絨毯をはり転倒リスクの軽減に配慮している。	○	全室内に24時間換気をしている。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	潜在能力を活かした支援の工夫を担当者会議で話し合い自立した暮らしが出来るように支援している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設周囲には芝生を植えて椅子を設けたり、テラスには憩いの場として椅子やテーブルも備えている。		

グループホーム みんなの家

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム みんなの家

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)